



水キラキラ 町いきいき入善

議会だより入善

GIRAI

DAYORI

NYUZEN

No. 137

2006年4月27日



うれしいなあ！今日から1年生（桃李小学校）

3月定例会

安心して住めるまちづくりに（平成18年度予算） 2～3P

学校給食の請願を継続審査に（請願・陳情） 4～5P

国際交流基金のつかいみち（委員会レポート） 6～7P

町政を問う 代表・一般質問（8議員） 8～15P

入善町に移り住んで・入善のむかし話 16P

ホームページでもご覧になれます。 <http://www.town.nyuzen.toyama.jp/>

平成18年度予算 の概要

3月議会の
あらまし

3月議会は、7日から17日までの11日間開会し、町長から提案のあった平成18年度一般会計などの議案41件、議員提出議案3件を審議し、すべて可決した。

また、請願2件、陳情1件を審査したほか、10日、13日の2日間 にわたり、代表・一般質問が行われ、8人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

平成18年度予算額

一般会計

94億5936万円

特別会計

- ・国民健康保険 20億5064万円
- ・老人保健医療 30億 564万円
- ・簡易水道 5318万円
- ・育英奨学資金 602万円
- ・下水道 25億5476万円
- ・農業集落排水 8億 181万円

予算の基本方針

少子・高齢化への対応、自主的な防災の組織づくり、地域全体で子どもを守る体制づくりなどのため、地域力を生

かした取組みを推進する。行財政改革の着実な実施、三位一体改革の影響を町民に転嫁しないことなど、基本と

主要施策の概要

安全・安心の まちづくり

自主防災組織・警察・消防・学校などで構成する「入善町安全なまちづくり推進センター（仮称）」を設置し、組織相互の情報共有や協力体制の強化を図り、安全体制を構築する。

また、「市町村防災図上訓練推進モデル事業」で、消防庁の専門チームから指導を受け、地域の防災力を高める。

さらに、災害時に迅速な対応のために、災害対策基金3000万円を積立てる。

食育の推進

食の安全・安心も求められていることから、食を通して生きる力を養う「食育」を推進する。



災害に備えての防災訓練

安心して住めるまちづくりに 地域力を活かした取り組みで

子育て支援

小学校3年生までの医療費の無料化を堅持するほか、保育料の軽減、児童手当の支給対象を小学校6年生まで引き上げる。

また、病後児保育の実施や児童センター内に「子育て支援センター」を設置し、育児支援の充実を図る。

介護予防と

地域支え合い

介護保険制度の改正にあわせ、介護予防を推進するため「生活機能改善教室」「栄養改善教室」を新たに実施する。

また、その拠点として「地域包括支援センター」を設置し、高齢者の保健・福祉にかかる総合的な相談・支援や介護予防マネジメントを行い、きめ細かなサービスの提供を行う。

地域経済活性化

企業誘致の推進、インターチェンジの設置、市街地のにぎわい創出、特色ある産業支援などを行う。

また、売れる入善産米を目指すし、付加価値の高い米づくりを推進するとともに、直播栽培など農業経営の安定化に努める。

生活基盤整備

幹線道路網計画に基づき主要7路線の整備を促進する。

また、市街地における交流人口の増加などのため、旧中央公民館跡地を利用し、交流とまちづくりの拠点施設「うらおい館（仮称）」の建設に着手する。

17年度 3月補正予算

除雪費用を専決補正

5177万円

農業の振興と発展のために、基金として積立てる。

黒東小学校の整備費

1億8300万円

「平成18年豪雪」のため、道路除雪と高齢者世帯の屋根雪下ろしなど、除雪費用の専決補正を承認した。

農業振興基金積立て

2000万円

黒東小学校の体育館の耐震補強工事と大規模改造を、国の補正予算にあわせ前倒しして実施する。平成18年度中の完成を目指す。

入善町農協からの寄付金を、



耐震補強が待たれる黒東小学校

請願・陳情

◎ 入善町学校給食における直営自校方式の継続を求める請願書

請願者 連合富山新川地域協議会入善地区協議会ほか1団体

将来を担う子どもたちの、健やかな成長と豊かな心の教育のために、直営自校方式の学校給食の継続を求める。

賛成多数で継続審査とした

◎ 「安心して子どもを産み、育てられ、子どもが健やかに育つ環境の整備」を求める意見書採択についての請願書

請願者 連合富山県連合会入善地区協議会

安心して子どもを産み、育てられ、子どもが健やかに育つ環境の整備を強く求める。

賛成全員で一部修正し採択とした

◎ 「公共サービスの安易な民間開放は行わず、充実を求める意見書」提出に関する陳情

陳情者 富山県国家公務員労働組合協議会

公共サービスの安易な民間開放を行わず、必要な公務員数を確保すること。

反対多数で不採択とした

議員提出議案

◎ 入善町議会委員会条例の一部改正について

行政組織の変更に伴い、農水商工課を産業教育常任委員会の所管に改める。

賛成多数で可決とした

◎ 道路特定財源制度の見直しに関する意見書

道路網整備の必要性および財源の確保を十分考慮するよう、国に意見書を提出する。

賛成多数で可決とした

◎ 「安心して子どもを産み、育てられ、子どもが健やかに育つ環境の整備」を求める意見書

地方自治体が実施主体となる子育て支援施策に対し、地方交付税措置を講じるよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした



虫歯はないかな

入善町固定資産評価審査委員会委員の選任について

3月21日に任期満了となる委員の後任として、上田卓治氏の選任を同意した。



上田卓治氏
入善町入膳

条例の制定・改正

◎ 入善町国民保護対策本部及び入善町緊急対処事態対策本部条例の制定について

武力攻撃における町民の保護と緊急対処事態に備え、対策本部の条例を制定する。

賛成多数で可決とした

◎ 入善町災害対策基金条例の制定について

災害が発生した場合における救援体制の円滑化を図ることを目的とし制定する。

賛成全員で可決とした

◎ 入善町農業振興基金条例の制定について

入善町農業の振興と発展のため基金条例を制定した。

賛成全員で可決とした

◎ 入善町行政組織条例の一部改正について

行政組織の変更に伴い、「農政課」「商工水産・深層水課」を「農水商工課」とした。

賛成全員で可決とした

◎ 入善町の職員の給与に関する条例の一部改正について

町職員の給与表を現行の8級制から6級制に変更した。それに伴い職員の給与は平均4・8%減額となった。

賛成多数で可決とした



おいしい米づくりを目指す集落営農

施設管理者を福祉法人などに指定

指定管理者制度に基づき、新たに町の3施設を、福祉法人や民間事業者を管理者に指定する条例案が提案された。

入善町デイサービスセンター

指定管理者「社会福祉法人 おあしす新川」

入善町健康交流プラザ

指定管理者「株式会社 新川ビルサービス」

入善町漁港施設

指定管理者「入善漁業協同組合」

3件を賛成全員で可決した

臨時議会(3月30日)

入善スマートIC道路事業用地の取得について

入善町神林地内のスマートICの本格設置に向けて、道路および駐車場の用地を、約1億5478万円で取得する。

賛成全員で可決した

常任委員会レポート

産業教育 常任委員会

担い手育成の対応は

Q いま、農業政策は大きな転換期を迎えている。担い手の育成にどう対応するか。



「花より団子」大観桜会

A J Aを中心に普及所、町、公社でプロジェクトチームの編成を検討したい。

また、チームの中に、アドバイザーや集落営農に取組んでいる方々も参加させたい。

J A合併で補助金は

Q J Aの合併で、農業振興補助金や「とも補償」な

ど、入善町と朝日町の組合員間に差異が生じるのでは。

A 「とも補償」制度は入善町独特のものとして組合員に定着し評価されている。朝日町にこの制度の導入を申し入れたい。

バス運行委託料の内訳は

Q 公共交通運輸対策事業費の中で、バス運行委託料698万円計上されている。その内訳は何か。

A 従来の町営バス路線に、地鉄が運行していた新屋線を加え、委託するものである。

ゆとり教育が学力の低下を招くのでは

Q ゆとり教育で生徒の学力が低下したのではないか。

A 指導要領に準じており、基礎学習の充実に一丸とって取組んでいる。総合学習、郷土学習など、ゆとり教育は大切である。

観桜会の内容は

Q 観光事業費に観桜会補助金50万円が新規計上されている。その内容は何か。

A まち活性化事業の一つとして4月8日に開催する。武村福祉会館を会場に、歌や踊りを見ながら花見を楽しむ、まちのにぎわいや人の交流を提供するものである。

こんな意見も

◎ 防災林の現状は密生状態である。間伐しなければ防災林として機能しなくなる。

◎ 学校給食も教育の一環ではあるが、総合的に子育て環境、教育環境について論議が必要。

総務 常任委員会

国際交流基金の 用途は

Q 18年度予算歳入で、国際交流基金繰入金1億円の用途はなにか。

A 当初、フォーレスト・グロープ市で交流施設建設を目的にしていた基金である。ホームステイ方法をとることにより、基金は長年使われていなかった。今年度からの、人の交流をねらいとした「うるおい館（仮称）」建設への資金として、一般財源へ繰り入れた。

町への石油類納 入価格は

Q 庁舎燃料費の石油納入価格と一般家庭では差異がある。価格の算定方法はあるか。

A 予算編成時に、近隣の市・町を参考に入善町石油組合と価格交渉している。特に今年度は石油価格高騰の影響が大きく、1月にさかのぼって価格の見直しをした。

前納報償制度を 見直せ

Q 町税前納報償制度の適用者はどの程度か。そろそろ見直しが必要ではないのか。

A 適用者は3割程度であるが年々少なくなっている。報償金も100分の3から100分の2に見直している。今後、時代に合うよう検討したい。

並行在来線への 対応は

Q 町は並行在来線対策調査費を予算化したが、県の意向を聞いているのか。新幹線駅周辺などの負担はどうなっているか。

A 予算は、町単独の調査費であり、県からの具体的な話はない。在来線県対策協議会が18年度から始まる。町の建設課長がメンバーである。新幹線の駅、周辺整備費などの負担もまださまざまだない。その都度議会に報告する。

介護保険法改正へ の体制づくりは大 丈夫か

Q 介護保険法改正により、要支援者、特定高齢者などへのケアプラン作成が地域包括支援センターへと一本化された。ケアマネージャー、保健師などその要員確保も含め、体制づくりは大丈夫か。

A 4月に改正法が施行され、地域包括支援センターでは10月までに体制づくりを進める。センターには、ケアマネージャーが3名いる。またケアプラン作成は民間委託も含めて対応するため、利用者に迷惑をかけないよう対応する。

こんんな意見も

◎18年度予算は自助・共助・公助のまちづくりを基本に重点配分されるが、経常経費の圧縮、三位一体改革の影響について、その負担を町民に転嫁するな。

◎公債費に関する財政指標も県内トップレベルで低く抑え

られており評価する。

◎「うるおい館（仮称）」建設に当たっては、多くの関係者から意見を聞いて設計に反映させ、後悔のないように。

◎介護保険法が大幅に改正となる。適材適所の人員配置と研修をしっかりとせよ。



今年度から始まる在来線協議



町長選挙の年、米澤町長の所信を問う

アクセス21 谷口 一男 議員

町長

今後のまちづくりに関わらせていただきたい

問 今年は、後期総合計画の実施に入る大事な年である。

8月に行なわれるであろう町長選挙への出馬の考えは。

米澤町長 町民が主権の民主政治の推進と、清潔・公正・公平な心の通い合う魅力ある町政の推進を基本として、まちづくりを考え実践してきた。今もその基本姿勢は変わらない。

様々な理由で単独町政を選択し、持続できる財政基盤の確立を目指し、行財政改革に取り組んでいる。

少子化対策、企業誘致、既存企業の増設など、少しづつではあるが成果をあげている。「うるおい館(仮称)」を中心とした市街地再活性化事業、スマートインターチェンジや地域介護包括支援事業など、今後の指針となる後期総合計画を策定した。これは、私の

マニフェストにあたる。

私は「健全財政の堅持」を命題として、町民が安全で豊かに、持続的に住むことが出来る地域と社会をつくることに、ぜひとも町長として関わらせていただきたい。

平成18年度予算の基本方針と特長を示せ

健全財政を堅持し、自助・共助・公助のまちづくりが基本

問 町長は、昨年を「改革元年」と位置づけ、18年度は更なる飛躍を期待し、「地域活性化元年」と位置づけて予算編成に当たったと述べている。編成にあたって最も腐心したのは何か。

重点投資・重点配分した施策の基本方針、内容は何か。



「出馬表明」の米澤町長

町長 腐心した第1は、財源の縮小を、町民サービスの低下や町民負担に転嫁してはならないこと。

第2に町民ニーズを施策に反映させ、将来をどう見通すかを責務と考え、「健全財政

の堅持」を命題として、「自助・共助・公助のまちづくり」を基本として取組んだ。

安心・安全のまちづくり、食育推進、子育て支援、介護予防・地域支え合い、地域経済活性化などの各事業に重点

投資・配分し、農業についても予算の重点化を図った。

農家への経営安定対策は万全か

要件適用に向け準備している

問 平成19年度に導入される経営安定対策の支援対象者は、一定の要件を満たした認定農業者や集落営農組織の「担い手」だけである。

町の取組みは万全か。

浜田農政課長 要件適用に向けて準備をしなければならぬと考えている。説明会開催の要望があれば、関係職員が出向き説明を行なっている。

18年度に担い手育成アドバタイザー制度を設置し、指導・助言をしていく。



「うるおい館(仮称)」建設には、 町民の意見を反映せよ

ウォーム入善 本多 幸男 議員

町長

入善地区公民館・商工会 ・民間ホテルで相乗効果を出す

問 「うるおい館(仮称)」は、
新年度予算の目玉事業であり、
我が会派も賛成である。

しかし、商工会や元町区長
会の要望を受けて予算計上さ
れたと聞いている。もう少し
活用する主役の町民の意見を
聞いて設計に反映すべきでは
ないか。唐突に提案された感
を持たざるを得ない。

近い将来、武村福祉会館を
解体した場合、その代替施設
を兼ねることも考慮すべきで
はないか。

その為に周辺の整備と駐車
場のスペース確保など万全を
期すべきと考えるが、当局に
その用意があるか。

町長 従前より、入善元町地
区から公民館建設の要望が強
く出ており、これまで利用し
ていた武村福祉会館の老朽化
に伴い、今回2カ年連続で事
業化したいと考える。

商工会からも入居希望があ
り、商業振興の中核施設とし
ての機能をもたせる。

民間資本によるホテル建設
の申し入れもあるので、市街
地のにぎわいなどにおいても
相乗的な効果も大いに期待し
ている。

臨時職員の労働条件を向
上せよ

臨時職員に有給休暇の付
与を検討

問 町行財政改革大綱5カ年
計画の2年目を迎える。この
改革を見ると、最初に人員削
減ありきで、仕事の質量はど
うなるか記していない。

実態は正職員を大幅に減ら



「うるおい館(仮称)」建設予定地

し、臨時、パートを増やして
いる。これで責任ある行政執
行と言えるのか。それとあわ
せて臨時職員の労働条件を向
上せよ。

中島総務課長 町の行政執行
に臨時、パートの皆さんも貢
献しているの、常勤する臨
時職員に一定の条件の基に7
日間から10日間の有給休暇を
与えるよう検討している。

どこに重点を置いて新年
度予算を編成したか
町民サービスの低下、負
担増にならぬよう配慮し
た

問 三位一体の改革で町も5
億円の直撃を受けた。勝ち
組、負け組がはっきりしてく
る時代と言われる中で、町の
財政当局は、どこに重点をお
いて新年度予算を編成したか。
町長 多額の補助金・負担金
や交付税が減額されるなか、
・安心・安全のまちづくり
・食育推進
・子育て支援
・介護予防、地域支え合い
・地域経済活性化
を重点に新年度予算を編成し
た。



「今の給食を守れ」の住民の声をどう受け止める

日本共産党 松田俊弘 議員

教育長 中間報告の趣旨を理解してもらおうよう努める

問 学校給食検討委員会の「共同調理方式で民間委託が望ましい」とする中間報告に対し、当局と住民との意見交換では、厳しい意見が出された。町直営の自校方式を守り発展させるべきである。

答 住民の声をどう受け止めているのか。
米島教育長 出された意見を真摯に受け止め、検討委員会に伝えるところに、今後とも中間報告の趣旨を町民に理解してもらおうよう努める。

要支援者への家事援助の原則禁止は適切なのか

適切なケアマネジメントで柔軟な対応が図られる

問 改正介護保険で、介護度1の6割の人が要支援に移され、町では要支援者は400人超となる。

同時に、要支援者への掃除や調理などの家事援助が原則禁止になる。

ヘルパーは、高齢者がどう生活していくのか心配している。

これが適切なのか。

鍋谷健康福祉課長 現行の身体介護と生活援助のサービス区分を一本化し、適切なケアマネジメントに基づき、柔軟な対応が図られる。

困難をかかえたアワビ養殖に町、県、国とで対応を

これといった対策は見えないが、町も支援する

問 アワビ養殖は大きな困難に直面している。養殖施設での養殖を中止し、大幅に規模を縮小しているが、固定費で赤字が膨らむ状態だ。計画段階から危険を指摘し

てきたが、問題はどこにあったのか、今後どう対応するか県、国と協議すべきだ。

符島商工水産・深層水課長

ある程度の技術確立はできたが、思うように売れず、市場価格の下落や計画以上の経費で、毎年赤字を招いている。

これといった解決策は見えていない。今後、経費の削減、販路の拡大、高い単価での販売がポイントになる。町も支援していく。

桃李小周辺の道路整備を

グラウンドへの縦道は、水路の暗渠化で幅を確保

問 後期総合計画に、町道横山栢山新線整備を入れたが、県との協議を急ぐべきだ。また、田ノ又からグラウンド間の縦道、再生広場と県道間の道路整備を求める。



活発な論議がされた学校給食意見交換会

小森建設課長 町道横山栢山新線では、県に対して強く交渉点改良などの要望を働きかけていく。グラウンドへの縦道は、来年度から水路を暗渠

化し道路幅を確保する。再生広場への道路幅も検討する。

地域力を生かした町づくりとは



鬼原 征彦 議員

町長 支えあいの組織づくりが重要

問 町長は、地域力を生かした取組みを、より一層、具体的に進めると表明した。

自治の原点である地域づくりをどのように考えるのか。

町長 少子・高齢化への対応や自主的な防災組織づくり、子どもを守る体制づくりなど、地域での支えあいの組織が重要になってくる。

特に、災害時に相互支援体制を組めるよう情報の共有、ネットワーク化を図る。また町内会を単位とする防災組織の結成を進める。

品目横断的経営安定対策への対応は

担い手の掘り起こしに努める

問 平成19年の生産から品目横断的経営安定対策が実施される。今後の担い手づくりをどのように考えているか。

また転作作物である大豆、麦などの支援策はどうか。

農政課長 意欲と能力のある農業者について、農地の規模拡大を促し、認定農業者と農地の団地化などによる集落営農組織への誘導を図る。

また、現行の産地づくり対

策は、米の需給調整を機能させるため、継続されると聞いている。

学校評議員制度と
富山型学校評価の状況は

学校運営に大きな成果

問 学校評議員制度や富山型学校評価システムの内容と、実情はどうか。

教育長 学校評議員制度は、保護者や地域住民の意向を反映させるもので、地域に開か

れた学校運営に大きな成果をあげている。

富山型学校評価システムは、目標の設定、達成度、評価、公表を行うもので、黒東小、ひばり野小、舟見中学校で実施している。

介護予防の施策評価事業への取組みは

本人自身の意欲と
目的意識が大切

問 介護予防事業に高齢者施

策評価事業が制度化されたが、どう取組むか。

また認知症予防事業として、自主グループの活動を支援しているが、その効果は。健康福祉課長 介護予防は、本人の改善への意欲と目的意識が大切である。家族を含め町も一体となって取組む。

また認知症予防を目的として7グループが活動しており、意識や精神面で大きな効果が出ている。

沢スギの植生変化への対応は

保全計画を建て直す

問 沢スギは、環境の変化によって植生が変化しているが、対応はどうか。

また沢スギの湧水で、環境に配慮した水飲み場を整備すればどうか。

泉生涯学習・スポーツ課長 16年度の植生調査では、高木層の密集や落葉照葉樹が増えるなどの変化が見られる。調査結果を踏まえ、今後の保全計画の建て直しに取組む。また、自噴水は人気も高く、足場など付近の整備を行っている。



沢スギのボランティア清掃活動（富山県造園業組合連合会青年部）



深層水事業は町西部地区振興の目玉事業と位置づけるか

中瀬 範 幸 議員

町長

西部地区振興の活性化の柱とする

問 海洋深層水事業は町活性化の起爆剤であり、町西部地区振興の目玉事業としての位置づけは、今も変わりないと思うが、町長の考えをさせ。

町長 これまでに水産業の振興、新規産業活動の振興、町のイメージアップの3本柱で様々な事業にチャレンジしてきた。国、県、漁協、町漁協など関係団体との連携を進めてきており、単に水産振興だけでなく町活性化の大きな施策として実施するものである。特に平曾川から入善漁港を中心とした西部地区振興の活性化の柱とするものである。

アワビ養殖不採算の原因究明と課題は明確か
課題は明確である、適正な売価と経費節減が必要

問 昨年来、アワビ養殖事業の不採算が続いている。その原因究明と課題が明確になっているか。

町長 収入面では販売単価の下落、販売数量の大幅未達である。売上高見込みの30%にしか達していない。販売促進体制の強化が課題である。

入善漁協や県と協議していききたい
県の稚苗工程を誘致し、産卵から一貫生産をせよ

問 県農林水産公社の稚苗施設が老朽化し閉鎖すると聞く。現在の養殖施設で、産卵・稚苗・養殖の一貫生産ができるよう、誘致行動をせよ。

町長 氷見市にある県栽培漁業センターは、28年経過し老朽化が著しいと聞く。提案のアイデアは、素晴らしいと考える。

一貫生産体制をとれば、施設の運用効率、稚苗コストの削減など期待できる。

経営体として第3セクターなど民間を活用せよ
関係機関を交え協議する

問 現在のアワビ養殖が円滑に軌道に乗るまで、入善漁協任せでいいのか。

町長 第3セクターなど民間活用の検討をせよ。本多助役、まず入善漁協の意思確認が不可欠である。

県水産漁港課や関係機関を交えて十二分に協議しなければならぬと考えている。



早急な改善が待たれるアワビ養殖

現行の飼育水の循環方法は、水質を悪化させ斃死が多発するし、燃料費もかかる。今後は、表層水と混合して

かけ流し方式による飼育方法を検討することが必要と思われる。

また、適正な売価と経費節減による原価設定が必要。

一般質問

土地利用構想策定の目的と 総合計画とのかかわりは



長田 武志 議員

町 長

町の将来あるべき姿や地域の 方向性を示すもの



「たくさんいれてね」おいしい給食

問 町が平成17年6月に策定した土地利用計画構想は、町活性化のために、土地の有効利活用の基本となるものだ。策定の目的と総合計画との関わりはどうか。

町長 まず土地利用構想策定の目的は、平成13年3月に策定した入善町総合計画を基本として、総合計画との関わり
土地利用に関する町の将来あるべき姿や地域の方向性を示すために策定した。
また、総合計画との関わりについては、平成18年度から22年度までの後期基本計画策定に当たり、基本的要素として反映した。

「産業創出エリア」を
活用し大商業施設を
町発展に必要な基本方針
針に基づき取組む

問 新たな雇用機会の創出や町のにぎわい、活力向上の観点から、若い世代をターゲットにした店舗や、地場直売施設を含んだ大商業施設が必要だ。

町長 「産業創出エリア」は、適正な産業・商業施設の誘導と配置を図るとともに、無秩序な開発を抑制することを目的として設定したものだ。

大型商業施設の立地計画について、国の「まちづくり三法」の改正案や、県の「広域街づくり商業振興懇談会」の設置など、国、県の動向も慎重に見極めていく必要がある。しかし、町発展に欠かせないと判断する産業立地に関しては、構想の基本方針に基づき取組んでいく。

学校給食は今後を考慮し合理的方式に移行せよ
中間報告の趣旨を理解していただけるよう努める

問 三位一体改革による町の今後の財政状況、少子化による児童生徒数の減少など、町を取巻く環境を考えた場合、学校給食は合理化した方式に移行すべきと思うが。

小森学校教育課長 学校給食検討委員会から町に対して、「現在の単独調理方式を改め、共同調理方式に試行的に実施するのが望ましい」との中間報告が提出された。

これを受けて教育委員会では、町民への理解を図るため、PTAなどの保護者に説明会・意見交換会を実施した。

その結果、保護者など町民が理解を深めるための時間が必要と検討委員会から報告があった。

今後とも、中間報告の趣旨を保護者や町民の方々に理解していただけるよう努めていく。



食育推進プラン、フェスティバルの内容を示されたい

大橋 美椰子 議員

町長 「食」について考える第一歩の取組みと位置づけたい

問 町長は、食育推進計画を策定し、食育の基本的な指針づくりやシンポジウム、フェスティバルの開催を提案したが、その内容を示せ。

町長 18年度は、生きる力を養う「食育」の推進に力を注ぐ。講演、パネルディスカッション、食を学ぶイベントなど、「食育」への機運が高まる内容とする。

食育の推進母体となる組織や人づくりにも取り組む。

問 地場産品の活用増を図るため、生産者へ促進強化を。助役 地元の野菜などを給食の食材として供給拡充を図っている。

栽培計画を策定し、関係機関が一体となって拡大する。

地域包括支援センターの業務内容を示せ

高齢者などの相談・ニーズに対応し、健康福祉課内に置く

問 町が事務局となる地域包括支援センターの業務内容を示し、住民がスムーズに利用できるようにすべきだ。

健康福祉課長 高齢者・障害者などに対する総合的な相談・支援、実態把握、介護予防事業や新予防給付のためのマネージメント業務、権利擁護や虐待防止、地域ケア団体との調整などの業務を遂行する。

センターは健康福祉課内に置き、様々な相談、ニーズにワンストップで対応できる体制を整える。

問 保健師の業務が増えるが、有償ボランティアでの経験者

を募集してはどうか。

健康福祉課長 民生委員やサービスマスター、ボランティア、医療・福祉団体など、地域ネットワークの強化を図りながら、柔軟な支援や連携を得られるよう努める。

様々な人材やネットワークの活用が重要であり、有償ボランティアも含め適切な対応を図る。

男女共同参画の推進に女性の登用拡大を求む

積極的に女性の登用が必要と認識している

問 17年度、教育委員、農業委員、監査委員などで、女性が一名ずつ減っている。女性の登用を増やすべきだ。

生涯学習・スポーツ課長 17年度までに国、県と同じく、女性の割合の目標を30%

としているので、積極的に女性の登用が必要と認識している。

自主防災組織や防犯パトロール隊など、地域における男性、女性の積極的な参加が望まれる。これらの組織や地域おこ

し、観光など参加者の性別に偏りがある。

新たな視点で見直し、男女が社会のあらゆる分野で活動に参画する機会が確保され、喜びと責任を分かち合う男女共同参画社会を目指す。



期待される女性消防団員

一般質問



もみ 種籾の温湯消毒を検討する考えは

日本共産党 九里 郁子 議員

農政課長 JAみな穂が導入すれば支援したい

問 地域や農家の条件も異なるなかで、「品目横断的経営安定対策」で農業が守れるか。徹底して農家の意見や要望を聴くべきである。4号未満の農家をどう救済するのか。コシヒカリB1米や種籾の温湯消毒の研究と普及を検討する考えはないか。

農政課長 担い手育成が急務であり、頑張る農家が報われる仕組みと理解する。平成19年から3年間は、今の施策が継続されると理解している。JAみな穂では、温湯消毒は減農薬で環境にやさしく、コスト削減にもなるとしている。平成19年度から全面的に導入の考えと聞いており、積極的に支援したい。



屋根雪下ろしにおわれた「平成18年豪雪」

低所得の障害者に町独自の軽減制度をつくれ
公平性からも一定の負担を願う

問 障害者自立支援法では障害が重く、サービスを必要とする人ほど利用料がかさむ。低所得者に町独自の軽減制度をつくる考えはないか。

健康福祉課長 自助、共助や介護保険制度とのバランス、公平性からも一定の負担をお願いしたい。

子育て支援の強化を
土曜保育の拡充に取組みたい

問 夕方6時から7時までの延長保育を無料に戻すべきだ。土曜日出勤の企業や事業所がまだある。希望者がいる保育所は土曜日の一日保育を実施すべきである。

3つの小学校下に学童保育がない。町の責任で早急に実施すべきだ。

健康福祉課長 延長保育は受益者負担の原則から、保護者負担をお願いしたい。

土曜保育の拡充に取組みたい。学童保育は地域の方々の

主体で運営を願う。
ダム排砂方法の見直しを
宇奈月ダムの堆積を踏まえ検討される

問 ダムの排砂方法を見直す考えはないか。

建設課長 宇奈月ダムの堆積が進行しており、これらを踏まえ検討されると考える。

問 粗朶沈床、木工沈床による河川整備や海岸護岸の保全について、関係機関に働きかける考えはないか。

建設課長 粗朶沈床、木工沈床については検討したい。

高齢者世帯などへの屋根雪下ろし助成は弾力的に
柔軟な対応を検討したい

問 高齢者世帯などへの屋根雪下ろし助成制度は弾力的に運用すべきである。

そうした世帯の除排雪に町職員が参加できないか。

健康福祉課長 区長連絡協議会からも要望があり、災害的な大雪には、柔軟な対応を検討したい。

除雪は、自助、共助の精神
でお願いしたい。

「良いところに住みついたなあ」と都会の友人たち

入善町に移り住んで



上野善一さん

入善町荒又在住

この地に住みついてはや7年、一人の知人もなくぶらりとやって来て、一年半かけて家をつくり、今は親子3人でのんびり暮らしています。

入善町は海あり里山あり、遠くには北アルプスの山々が、色々な美しい姿を見せてくれます。空気が良く水は豊富できれい。米がまた大変おいしく、新潟の米にも負けません。扇状地に広がる家々の風景が自然で美しい。

夏には、春日の海岸に海水浴に行きます。誰もいない穏やかな海は、東京下町育ちの私には、びっくりするほど静かです。春から秋に

かけて、舟見のお城や裏側の堤に散歩に出かけ、帰りに温泉に入り汗を流してきます。私を見かけた人は声を掛けてください。

今では入善町で知り合った人は、何百人にもなります。皆さんとても良い人たちです。私の家に毎年、都会から何十人も人が遊びに来ます。町内の色々な所を案内して廻りますが、誰もが「良いところに住みついたなあ」と言います。

自然が好きで、子どもと遊ぶのが大好きな私です。入善の皆さん、私たち一家をよろしくお願いします。

入善のむかし話 (森清松編より)

谷江の堤

舟見城址から少し離れた所に、大きな用水ため池があります。それは、今から三百年ほど前につくられた谷江の堤です。まわりは約五百メートル、二十ヘクタールの水田に水を送っています。

大正八年に、舟見の橋場清蔵という人が、小さな鯉五千びきと鮒をはなしました。数年後、大きくなった鮒を生地へ売り、鯉は小川温泉へ売ったといひます。そのころ、堤の持ち主は「舟見町」だったので、一年間に五円（あとから十円）の借ちんを役場へおさめたといひます。

四十年ほど前に、桜が植えられましたがいまでは大木になって、きれいな花をさかせ、野鳥の天国となつています。

また、むかしから「じんさい」が生えているのも有名です。



谷江の堤

編集の窓

桜前線が北上するなかで、久しく行われていなかった入善大観桜会が、4月8日武村福祉会館で開催されました。つばみもまだ固く、「花より団子」となりましたが、琴の演奏や日舞、カラオケ、の演奏や日舞、カラオケ、「マツケンサンバ」の踊りがあり、舞台上に花が咲き盛り上りました。

昭和45年頃までは、入善神社境内にたくさん桜がありました。満開の花の下で舞台がつけられ、芸妓さんの踊りが披露されるなど、春の風物詩でもありました。

時代が変わっても桜を愛する日本人のころとふれあいを大切にしたいものです。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 元島 正隆 |
| 委員長 | 松澤 孝浩 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 大橋美椰子 |
| " | 中瀬 範幸 |
| " | 長田 武志 |
| " | 鬼原 征彦 |